

第56回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会開催ご案内

総会開催にあたって

会長 鬼塚 真仁
(東海大学医学部内科学系血液瘍内科学)

会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたび、2023年（令和5年）1月21日（土）、22日（日）の両日、神奈川におきまして、第56回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会を開催いたしますので、ご案内申し上げます。

日本無菌生物ノートバイオロジー学会（Japanese Association of Germfree Life and Gnotobiology：JAGG）は1968年に設立され、半世紀以上にわたって無菌生物学・ノートバイオロジー（Gnotobiology）という視点で、医学、理学、農学、薬学、歯学、栄養学、獣医学、繊維学など多彩な領域の報告が積み重ねられてきました。本学会の特徴は、基礎と臨床の研究者が一堂に会して、自由なディスカッションを行うことであり、新しい令和の時代に向かって新たな飛躍が期待されています。

今回の総会では一般演題、シンポジウム、イブニングセミナーから構成いたしました。シンポジウムでは、近年広く注目される腸内細菌叢と疾患治療をテーマにとりあげ、今後期待されるあらたなノートバイオロジー治療と、その免疫学的なメカニズムについて取り上げました。会員の皆様には奮ってご参加いただき、多くのご発表とご議論をいただけますようお願い申し上げます。

会 期 2023年（令和5年）1月21日（土）、22日（日）
 会 場 東海大学 松前記念講堂
 〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋143
 Tel 0463-93-1121（代）Fax 0463-92-4511
 参 加 費 7,000円 学生会員 1,000円
 懇 親 会 費 3,000円

日 程（一部変更の可能性あります）

会 場	1月21日（土）	1月22日（日）
松 前 記 念 講 堂	13：00-13：30 開会の辞、総会	9：00-10：00 一般演題
	13：30-14：30 一般演題	10：10-11：50 シンポジウムⅡ
	14：50-16：30 シンポジウムⅠ	11：50-12：00 佐々木正五賞授与
	16：40-17：25 イブニングセミナー	閉会の辞
	17：25-17：40 記念写真撮影	
	17：40-19：30 懇親会	

シンポジウムⅠ 「常在細菌と宿主免疫の新たな展開」

シンポジウムⅡ 「がん治療における腸内環境の役割と今後の展望」

イブニングセミナー 「無菌生物学の臨床応用から始まった造血幹細胞移植の発展と今後の展望」

一般演題申し込み

- a. 対象 本学会会員
一般演題の演者と共同発表者は本学会会員であることを要します。未入会の方は日本無菌生物ノートバイオロジー学会事務所へ入会の手続きをしてください。無菌生物学・ノートバイオロジーに関する新しい知見を有する研究で未発表のものに限ります。
- b. 締め切り日 2022年（令和4年）11月11日（金）
- c. 申し込み方法 MS-Word で読み込み可能な文書ファイルで申し込み書を作成の上、E-mail に添付して、学会事務所 gnotobiolosaki@ks.kyorin-u.ac.jp へお送りください。
- d. 申し込み書 ①演題、②発表者（演者の前に○をつけてください）、③所属、④抄録、⑤英文演題、⑥英文発表者、⑦英文所属、⑧英文抄録、⑨演者 連絡先、氏名、生年月日、⑩ TEL、⑪ FAX、⑫ E-mail を明記してください。
①～⑧を「抄録集」B5版見ひらき2頁（和文と英文）に印刷します。
- e. 略語 本学会の会員構成は広範な領域にわたっています。略語（abbreviation）は初出のところに「略さない形」（full term）をお示しください。

例)

第52回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会一般演題申し込み書（2018年10月10日）	
①演題	<i>Helicobacter pylori</i> の自由生活性アメーバ共培養系における生存性の向上
②発表者	○北条 史*, 大崎 敬子**, 米澤 英雄**, 花輪 智子**, 蔵田 訓**, 山口 博之***, 神谷 茂***
③所属	(*杏林大学大学院医学研究科共同研究施設部門実験動物施設部門, **杏林大学医学部感染症学講座, ***北海道大学保健科学研究院病態解析学講座)
④抄録	(1,200字以内) I. 目的（または はじめに、背景等） <i>Helicobacter pylori</i> は胃炎・胃潰瘍・十二指腸潰瘍の起因菌であり…… II. 材料（または対象）と方法 <i>A. castellanii</i> Neff 株は6-well マイクロプレートに…… III. 結果、考察、結論 共培養系をインキュベーターに静置して……
⑤英文演題	Survival of <i>Helicobacter pylori</i> in co-culture with <i>Acanthamoeba castellanii</i> and their expressions of bacterial genes
⑥英文発表者	○FUHITO HOJO*, TAKAKO OSAKI**, HIDEO YONEZAWA **, TOMOKO HANAWA **, SATOSHI KURATA **, HIROYUKI YAMAGUCHI*** and SHIGERU KAMIYA***
⑦英文所属	*Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University, Mitaka **Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, Mitaka ***Department of Medical Laboratory Science, Faculty of Health Science, Hokkaido University, Sapporo
⑧英文抄録	(250 words 以内) <i>Helicobacter pylori</i> is a causative agent for gastritis, gastric ulcers, and duodenal ulcers. Almost 50% of the world's population harbor this gram-negative microaerophilic bacteria...
⑨演者	連絡先、氏名、生年月日 〒181-8611 東京都三鷹市…… 杏林大学…… 北条 史 (19……年…月…日生)
⑩ TEL	0422-47-…… 内線……
⑪ FAX	0422-44-……
⑫ E-mail	……@ks.kyorin-u.ac.jp

演題の採否はご一任くださいますようお願い申し上げます。演題が採択されましたら、機関誌「無菌生物」のプロシーディングスとして掲載する原稿をご提出いただきます。詳しくはお申し込み後にご案内いたします。

日本無菌生物ノートバイオロジー学会事務所
〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-12
公益財団法人実験動物中央研究所 小倉智幸
TEL 044-201-8520 FAX 044-201-8521
E-mail jagg@ciea.or.jp